

平成 30 年 6 月 15 日号

No. 2137

広報 すながわ

市制施行 60 周年記念号





砂川市長
善岡 雅文

砂川市は、未開の大地に開拓の鍬が下ろされて以来、先人達の郷土愛とたゆまぬ努力によって都市基盤が築かれ、中空知の中核都市として発展し、昭和33年に北海道では26番目の市として「砂川市」が誕生しました。この記念すべき60周年を市民の皆さんとともに祝いできますことは、このうえない喜びであります。

振り返りますと、初代の森市長より、山口市長、中川市長、菊谷市長、そして私へ「まちづくりのバトン」が引き継がれ、この60年間には多くの施策が展開されました。北海道子ども国、高速道路と直結するハイウェイオアシス、砂川オアシスパーク、新市立病院、砂川S.A.スマートインターチェンジなどのプロジェクト事業や、住宅、学校、上下水道をはじめとする各種整備事業、「地域で高齢者を見守る・支えるしくみ」の構築や福祉・医療の充実に係わる事業など、砂川の未来を見据えたまちづくりの60年間であったと思われまします。本年は、人の一生でいえば再び生

まれた年の千支に還ることとなる「還暦」の節目となり、大きな自然災害などに幾度も悩まされながらも先人達のたゆまぬ努力により、まちが再生し今の砂川が当たり前のようになっているに存していますが、砂川市が生まれたときに還り、これまでの歴史と伝統、郷土を愛する気持ちを次世代へ引き継ぐことも今を生きる私たち砂川市民の大切な使命だと感じております。

「安心して心豊かに、いきいき輝くまち」を新たに目指す都市像と掲げ、2020年までの10か年を実施期間とした第6期総合計画も残りわずかとなり、「このまちに住みたい、住み続けたい」と思うことができるまちの実現に向け、決意を新たにしているところでございます。

今日まで砂川市のまちづくりに熱意をもって取り組まれ、また、ご支援、ご尽力を賜りました先輩各位、ならびに市民の皆さんのご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。



砂川市議会議員
飯澤 明彦

砂川市が市制施行60周年を迎えるに当たり、砂川市議会を代表してお祝いの言葉を申し上げます。

砂川市が道内26番目の市として誕生した昭和33年7月1日は、町議会から市議会に生まれ変わった日でもあります。同年4月には、臨時町議会が招集され、「市とすることについて、町民の生活を高め、文化を向上させ郷土発展の大きな契機となることを切望し賛成する」として全会一致で可決し、議会としても大きな期待を寄せたところでもあります。

砂川市となってからは、恵まれた自然環境と交通の要衝として、地の利を生かしつつ、偉大な先達の方々、そして市民の皆さん一人一人のたゆまぬ努力のもと、都市施設の整備をはじめ、福祉・医療の向上、教育文化の育成、産業経済の振興など各方面において発展を続けて参りました。しかし、近年は、社会情勢が大きく変化し、少子高齢化、人口減少など、これまでにない新たな行政課題も数多いことに加えて、全国的に見

ても自然災害が多発し、市民の皆さんの生活、生命、財産を守るための危機管理も、より身近な、より重要な課題として対処していかなくてはならない状況になってきています。

私たちは、自治体の存続そのものが問われるような時代を迎えているという危機感を持ちつつ、市制施行60周年という節目を迎え、決意を新たに、これら、多種多様な課題を乗り越え、私たちのまち砂川を次世代に引き継いでいかなければなりません。

市制施行60周年を迎えた今年、地方創生に向けた多くの施策を展開するとともに、利用しやすい、親しみを持っていただける市庁舎の姿も明らかになってくるなど、これからも、市民の皆さんが希望を持って住み続けられるまちづくりを進めて参ります。砂川は、堅実に、そして着実に、未来へ向け歩みを進めているものと確信をしております。

市議会は、市民福祉の向上とさらなる市勢発展のため、これからも市民の皆さんとともに、多くの課題に全力で取り組んで参ります。結びに当たり、市民の皆さんのおすますのご健勝とご多幸を心からお祈りして、お祝いの言葉といたします。

市の発展に 大きな功績を残された 砂川市名誉市民



故 森 利雄氏

昭和22年4月砂川町長に就任し、同33年7月の市制施行で初代市長となり同38年4月までの4期16年間にわたって、市政発展の基礎づくりに貢献され、同43年7月に逝去されました。同年8月に勲五等瑞宝章を受章されています。



故 鈴木誠二氏

昭和34年から同46年まで市議会議員として活躍され、その間議長、副議長、監査委員などの要職を歴任されました。同46年からは、4期16年にわたり道議会議員を務められ、地域の発展に多大な貢献をされました。平成元年に勲四等旭日小綬章を受章されています。同28年2月に逝去されました。



中川徳男氏

昭和58年4月から平成11年4月まで、第3代砂川市長として4期16年間、市政の発展に貢献されました。この間、「アメニティ・タウン砂川の創造」に向け、卓越した指導力を発揮され、地域社会の発展に大きく寄与されました。平成12年に勲四等旭日小綬章を受章されています。



故 山口正直氏

昭和38年5月第2代砂川市長に就任し、以来5期20年にわたり、市長として市政の発展に寄与されました。この間住民福祉の向上や産業振興などへの多大な貢献をされ、昭和59年11月に勲三等瑞宝章を受章されています。平成20年3月に逝去されました。



故 菊谷勝利氏

昭和46年から平成11年まで市議会議員として活躍され、その間議長、副議長を歴任されました。また、平成11年4月から同23年4月まで、第4代砂川市長として3期12年間にわたり、市政の発展に大きな功績を残されました。同24年に旭日中綬章を受章されています。同27年7月に逝去されました。

砂川市市制施行60周年記念式典



市制施行60周年記念式典
実行委員会委員長
其田 勝則

市制施行60周年式典の実行委員長の大役をおおせつかり、身の引き締まる思いでございます。

式典を多くの皆さんとお祝いし、砂川の60年の歴史をしっかりと心に刻み、未来の砂川を多くの皆さんとともに歩んでいけたらと思います。

講演を行う講師の「養老孟司」氏による「未来の砂川を考える」についても、期待が高まります。お楽しみいただけることと思いますので、ぜひ会場へお越しくださいますようよろしくお願いいたします。



- ▶と き 7月1日(日)
- ▶と ころ 地域交流センターゆう
- ▶日 程 (式典)午後1時～1時40分 (講演)午後2時～ 講師 養老 猛司氏
- ▶入 場 料 無料 (整理券配布)
- ▶整 理 券 取 扱 所 市役所(総務課・市民生活課窓口)、公民館、総合体育館、海洋センター、地域交流センターゆう ※ 数に限りがありますので、お早めにお求めください
- ▶お 問 い 合 わ せ 庶務係☎2121



昭和47年ごろの街並み



市街地・砂川駅前



空知太地区



東洋高圧工業(株) 北海道工業所



市制施行パレード



市制施行時、市役所の看板をかける森市長

市制施行当時の街並み



旧市役所庁舎



JR 歌志内線廃止

昭和48年～63年の主なできごと



緑と花の祭典



こどもの国誘致活動



河川の改修工事 (昭和39～45年)



昭和37年の大水害



流雪溝完成



昭和

- 1958年(昭和33年)
 - 市制施行道内26番目の市となる
 - 砂川～滝川間国道舗装完成
- 1959年(昭和34年)
 - 平和都市宣言
- 1960年(昭和35年)
 - 字名地番改正、条丁目制を採用
- 1961年(昭和36年)
 - 集中豪雨により大水害となる
- 1962年(昭和37年)
 - 台風9号により石狩川氾濫、大水害となる
- 1963年(昭和38年)
 - 市民会館落成
- 1964年(昭和39年)
 - 安全都市宣言
 - 明るく正しい選挙都市宣言
- 1966年(昭和41年)
 - 砂川市総合5カ年計画策定
 - 郷土の木「ななかまど」を選定
- 1968年(昭和43年)
 - 砂川市旗制定
- 1970年(昭和45年)
 - 市立病院新院舎完成
- 1971年(昭和46年)
 - 石狩川切替工事完成
 - 市役所新庁舎完成
 - 市民憲章制定
- 1972年(昭和47年)
 - 砂川市第2期総合計画策定
- 1973年(昭和48年)
 - 広域消防組合発足
- 1974年(昭和49年)
 - 北海道子どもの国砂川に設置決定
- 1975年(昭和50年)
 - 緑化都市宣言
 - 第1回「緑と花の祭典」開催
- 1977年(昭和52年)
 - B&G海洋センター体育館 艇庫完成
- 1979年(昭和54年)
 - 総合体育館完成
- 1981年(昭和56年)
 - 砂川市第3期総合計画策定
 - 公民館・郷土資料室完成
 - 集中豪雨により大水害となる
- 1982年(昭和57年)
 - 市立病院、中空知医療圏地域センター病院に指定
- 1983年(昭和58年)
 - 流雪溝完成
- 1984年(昭和59年)
 - 図書館完成
- 1987年(昭和62年)
 - 優良自治体病院として市立病院が自治大臣より表彰を受ける
 - 市の花スズラン決まる
 - 北吉野町、焼山、空知太の各一部地域に住居表示地域実施
- 1988年(昭和63年)
 - 第1回「冬のフェスティバル」開催
 - JR歌志内線廃止
 - 砂川市と新十津川町の境界変更。砂川市の面積78・69平方キロメートルとなる
 - 宮川町、日の出町、緑町、豊沼町の住居表示地域実施
 - 道央自動車道(美唄～滝川間)開通

砂川から世界へ^{かけ}翔る



砂川中学校 3 年生
新崎 日菜子 さん

受賞歴

2016 年 NBA ジュニアバレエコンクール札幌
中学 1 年生部門 1 位
指導者特別賞

2016 年第 4 回台湾グランプリ国際バレエコンペティション
Pre-competitive 部門
9 歳～12 歳 1 位

2017 年第 5 回台湾グランプリ国際バレエコンペティション
Junior 部門 13～15 歳 1 位
など、数々の賞を獲得

バレエは 7 歳の頃に友人に誘われて竹内バレエスタジオに入り、始めたのがきっかけで、最初はバレエで回ることがとてもうれしかったという記憶があります。竹内大祐先生にバレエを教えてもらっていて、練習は正直「厳しい」と思うことはありますが、わかりやすく丁寧な指導もあり、「これを乗り越えられればうまくなれる」という気持ちが私を後押ししています。今まで賞を取っていますが、一番印象に残っているのは中学 1 年生のときに初めて 1 位を受賞した NBA ジュニアバレエコンクール札幌がうれしかった気持ちが一番強いものとなっています。中学校を卒業してからはバレエの海外留学をしてみたいと考えています。英語の勉強もバレエと併せて日々特訓中ですが、英国のロイヤル・バレエ学校や豪州バレエ学校などに挑戦をして、将来はプロバレエダンサーになりたいです。目標とする竹内バレエスタジオの竹内久美子さんと英国ロイヤル・バレエ団のプリンシパル（首席ダンサー）として活躍しているローレン・カスパートソンさんを目指して頑張っていきたいです。



砂川で輝く人を Pick up!

砂川で活躍されている方を取り上げ、産業、歴史、若手のホープ、芸術の視点からお話を伺いました。

チャレンジ・チャンス・チェンジの精神で前へ進んでいきたい

合資会社ホリホールディングス
代表 堀 昭 さん



プロフィール

昭和 57 年より菓子製造業を営む。平成 19 年から株式会社ホリ代表取締役社長、平成 27 年から合資会社ホリホールディングス代表に就任。平成 29 年には、産業振興部門において市政功労者表彰を受賞。

生まれも育ちも砂川ですが、大学や就職先は本州でした。父は菓子製造業を営んでいて、37 年前に砂川で父や兄たちと一緒に仕事をしていきたいと思ったことがきっかけで戻ってきました。砂川は環境や空気が良く、みんなが優しく、温かい。もちろん同級生や学校の先生に会う機会も多くあるからだと思いますが、年を取るたびにますますいい場所だと思います。

商売での苦労というのはもちろんありますが、今考えると本当に周りの人に助けられてきたということを実感しています。会社では毎年、全社員にクレド（信条）という小冊子を配り、会社の理念や経営方針などを共有し、社員が一人となって取り組めるようにしています。会社を大きくすることは大事なことですが、まず働いている“人”を大事にしています。現在では 80 歳以上の方にも仕事をしてもらっており、会社が少子高齢化社会へ向けて残っていくためには、待遇も含めて福利厚生なども充実させていかなければならないと考えています。また、社員のモチベーションアップやレベルアップのために人材育成にも注力しています。そして核となるお菓子づくりについては、どこに出しても負けない、北海道らしいものを出していきたいと思っています。また、私が薬剤師ということもあり、体に優しくおいしいお菓子も展開しようと考えて、札幌医科大学様との共同開発商品も販売しています。海外への進出も準備段階ではありますが、まずは来日される海外からの観光客の方々に認めてもらい、通用するお菓子を作っていかなければならないと考えています。

時代の変化に対応し、将来を見据えて私の長男と兄の次男への事業継承も進めながら“チャレンジ・チャンス・チェンジ”のスリー C の精神で、今できることを 1 つずつ実行していきたいと考えています。

砂川だけじゃつまらない。砂川から世界へ発信できる魅力がある



地域交流センターゆう
アートコーディネーター 太田 晃正 さん

プロフィール

昭和 38 年に東京厚生年金ホールに就職。昭和 46 年に札幌オリンピックを機に北海道厚生年金会館へ。退職後、平成 10 年～19 年まで北海道文化財団トータルコーディネーター、平成 18 年 10 月より地域交流センターゆうアートコーディネーター。

地域交流センターゆうには、設計前から関わり続けていますが、「子どもたちを育てよう、子どもたちは未来だ」ということをコンセプトに活動を続けてきました。さまざまな施設を私は見てきましたが、ハード面でもゆうは大きすぎず小さすぎずバランスの取れた施設で、全国でも稀有な施設だと思っています。これも開設当初から市民の人が関わっているからだと思います。ゆうも 11 年を過ぎて、市民みんなが関わっていく循環が出来つつあると思っています。例えば、劇団の心呂座一つを取ってみても、入団したときには小学生でももう大学生や社会人になっていて、卒業してからも教えに来ています。市民創作音楽劇心呂座から始まり、今では「人形劇」「キッズジャズ」「キッズ落語」が生まれましたが、まだまだ進行形です。これは、市民の皆さんのおかげです。いろいろな事を話してみても砂川は懐が深い人が多い印象です。

砂川を含めて北海道に伝統はないというけれども、伝統もよい場合もあれば伝統に縛られる場合があります。若い人が新しいことをやろうとしても慣習でやれないことが出てきてしまう。砂川では伝統をこれから作ることが出来る素晴らしい場所だと思っています。

ゆうはそして砂川はまだまだ成長できるまち。子どもや大人だけがゆうを使っていくのではなく、いきいき体操など高齢者向けの事業をしていますが、それだけではなく高齢者や幼児の劇団も作っていききたいし、アートの部分でも百枚襖などをみても砂川から世界へ発信できる伸び盛りのポテンシャルを持っていると思います。

砂川市の発展は“水”とともにある

砂川市郷土研究会 濱田 延榮 さん (右)
廣瀬 清 さん (左)



プロフィール

濱田延榮さん
平成 22 年より郷土研究会会長を経て平成 28 年より顧問
廣瀬 清さん
平成 29 年より郷土研究会会長、市史編さん委員会副委員長

郷土研究会では歴史を振り返りますが、紐解く際には事象一つの事柄に対して見ていくのではなく、歴史の全体を見渡していかないと繋がらない点が多々あると思っています。

砂川の歴史を語るうえではずせないのは“水との関わり”だと思います。一昨年には前線による 35 年ぶりの避難勧告が出されました。昭和 56 年も大きな水害でしたが、災害救助法が適用された昭和 36 年、37 年でも 71 年ぶりと言われた大水害で、しかも 1 度ならず 2 度立て続けに起こり、道路などは水没し一面水しかなく、誰もが必死に救助活動をしていたことが一番記憶に残っています。

そのような水害とは対照的に豊かな水が肥沃な土壌を生み、農業の発展に加えて、東洋高压工業（現在の北海道三井化学）や北海道電力、三井木材工業、北洋火薬など産業を発展させていったともいえるかと思いますが、産業の発展によって昭和 33 年にはテレビの普及率が全道一になるなど、砂川の文化の発展にも一翼を担っていると思います。

市制施行以降、市民運動から盛り上がった子どもの国の誘致や海洋センターなどの建設、はまなす国体の開催、アメニティタウン事業の推進、遊水地の設置、小中学校の統廃合など、振り返るとさまざまなことが思い出されます。今はスイートロードということで全国的にお菓子のまちで知られていることや医療のまちということで市立病院が市民の安全・安心を語るうえでも切り離すことはできないと思います。

砂川の市史を今年より作成を開始します。郷土研究会が研究してきた内容について、資料を提供する予定となっています。ぜひたくさんの方の市民の皆さんに砂川の歴史について関心を高めていただければと思います。



子ども×ミライ

～未来の砂川がこんなまちだったらいいな～

「砂川学童保育所」「中央学童保育所」「豊沼小学校地区放課後学校」「空知太小学校地区放課後学校」「北光小学校地区放課後学校」の子どもたちに、未来の砂川をテーマに書いてもらいました！（全員掲載することができず申し訳ありません！）

市立病院の 60年を 振り返って



病院事業管理者
平林 高之

市制施行60周年おめでとうございます。市立病院を代表しましてお祝い申し上げます。

市制施行と同時に当院も町立病院から市立病院に生まれ変わりました。砂川市立病院開院50周年記念誌（平成2年発行）には、昭和30年の佐々木正信院長の

談話として、「総合病院を目指して上砂川町、歌志内町（当時）、奈井江町、浦白町、浜益村（当時）を含む人口12万人の地区基幹病院として注目された」と記載されています。

その後、昭和57年に中空知地域センター病院に指定され、平成22年に新病院開院を迎えました。この間に幾度も運営の危機を経験してきました。市立病院の今日の発展は、先人のご苦勞の結果であることはもちろんのこと、市や市民の皆様さん、さらに周辺地域の住民の支えなくしては果たされなかったことは間違いありません。

現在、市立病院は診療科25科、病床数498床、医師98人、総職員数900人余りの、札幌市と旭川市の間では最大規模の病院となりました。中空知5市5町はもちろん深川市、美唄市からも多くの患者さん

がいらっしやいます。

当院の責任はますます大きくなり、役割も時代とともに変化してきました。これまでの急性期、救急を主体とした診療から回復期、慢性期を視野に入れた診療も当院の役割となってきました。

3年前にリハビリテーションと在宅復帰を目的として地域包括ケア病棟を開設し、本年度からは訪問看護ステーションを立ち上げました。

当地域の高齢化率は40%に迫る勢いです。特に団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて地域で高齢者が住み慣れた土地で安心して暮らせる地域包括ケアシステムの構築が求められています。

砂川市は全国に先駆けて行政、福祉、介護、医療の連携体制が構築されています。特に認知症については「砂川モデル」といわれるほど先進的な取り組みがされ全国的にも注目されています。

これからも当院は地域医療のトップリーダーを目指し、市と協力し市民の皆様さんや近隣住民にとって、より安心して暮らしやすいまちづくりに貢献したいと考えています。

昭和30年代前半のできごと

●結核病棟建設（昭和30年）

この時代は結核による死亡率が非常に高く、その予防と治療は医療機関の重要な責務でした。当時としては注目された施設であり、供用開始を待たず満室の状態でした。

●総合病院標榜（昭和32年）

診療内容の整備に伴い総合病院の標榜を申請し、北海道知事から承認されました。総合病院は、許可病床数100床以上で、主要な診療科（内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科の5科）を含む病院のことですが、平成8年の医療法の改正で廃止されました。

●基準看護実施（昭和33年）

患者数に対して看護師の比率を満たしている看護体制をいいます。現在の入院基本料の施設基準（一般病棟7対1など）と同じものです。看護師の増員が進んだため申請を行ったところ、北海道知事から承認されました。

●精神神経科設置（昭和33年）

この地域の精神病棟は皆無の状況で、すべて遠隔地の病院に入院しなければならず、地域の要望に応える形で精神神経科開設と精神病棟建設を行いました。

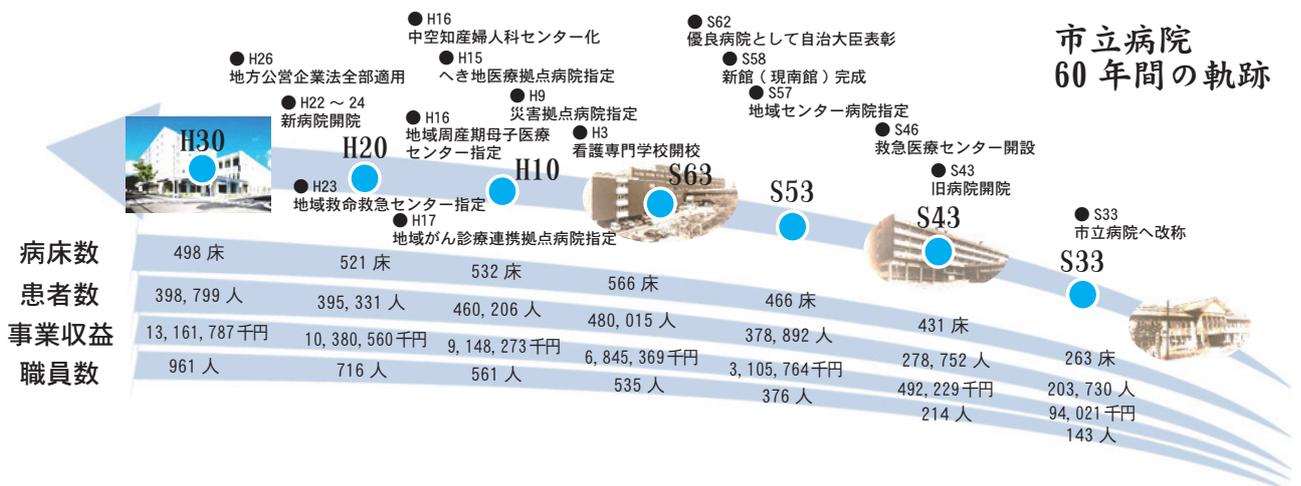
●整形外科設置（昭和34年）

札幌医科大学の配慮により整形外科が設置され、吉野繁夫先生が初代医長として着任されました。翌年、炭鉱地帯を中心に全国的に小児まひが大発生し、開設早々多忙を極めました。

●高等看護学院設置（昭和35年）

基準看護を維持するうえで正看護師の占める比率を高めるため設置しました。准看護師免許を持っている者が対象で、修業年限は2年間、当時の定員は15人でした。

市立病院 60年間の軌跡





ま ち の 話 題

■ホームページ「すながわTOPICS」でも紹介中！■

<http://www.city.sunagawa.hokkaido.jp>

一日は元気なあいさつから！

(5月22日～24日 市内各所)

「春のあいさつ運動強調週間」に合わせ、町内会や老人クラブなどが参加し、市内各所で一斉にあいさつ運動が行われました。子どもたちの登校時間に通学路に立つ団体が多く、笑顔であいさつを交わしました。子どもたちにとっても、元気なあいさつで、気持ちのよい一日のスタートとなりました。



●地域と子どもたちをつなぐ事業として19年目を迎えました

練習の成果を発揮～運動会～

(5月26日 各小学校)

曇り空で肌寒い気温でしたが、子どもたちはそんなことにも構わず元気な姿を見せてくれました。各小学校それぞれの子どもたちが日頃の練習の成果を発揮し、懸命に競技に臨みました。頑張った子どもたち、そして朝からお弁当作りや声援を送っていた保護者の皆さん、たいへんお疲れさまでした。



●ゴールを目指して一直線！(砂川小)

野菜さんたちおいしくな～れ！

(5月29日、6月4日、5日 各保育所)

公益財団法人コメリ緑育成財団より、トマトやきゅうりの苗、肥料などの提供を受けてコメリ パワー砂川店の従業員と園児による植栽を行いました。従業員と一緒に園児たちも「おいしくな～れ」と唱えながら、苗を植えていました。収穫時期には甘いトマトと見事なきゅうりがなるとよいですね。



●園児たちも願いをこめて一生懸命植えました

山菜のお味はいかがですか？

(6月2日 ネイパル砂川)

砂川の春を親子で楽しむ「ジャリン子春体験塾」が行われ、幼児から小学生まで16人の子どもとその保護者がウォークラリーなどで春の草花に触れました。途中、講師に教わりながら食べられる山菜を取り、昼食時に天ぷらにして食べました。「おいしい！」と感想を述べてくれた子が多く、春の味覚を堪能しました。



●山菜を載せたピザは大好評！喜んで食べていました

お知らせ



学校プール開放

- 開放期間 6月20日(水)～8月19日(日)
- ところ 豊沼・中央・北光・空知太小学校の各プール
- 遊泳時間 平日は午後3時～5時30分、土・日曜日、祝日、夏休み期間は午前10時～午後5時30分まで
- ※ 中央小学校のみ午後7時30分まで開放します。なお、

戦没者・殉職者慰霊式

戦争中に亡くなられた方々への慰霊を行い、次世代への平和を誓います。一般の方の参列も可能ですので、趣旨に賛同いただける方の参列をお待ちしています。(申込不要)

- と き 6月27日(水) 午前10時30分～
- と ころ 総合福祉センター 大集会室
- 詳 細 社会福祉係 ☎ 2121

北光小学校は施設修繕のため開放日が遅れます

- 遊泳の可否 水温や室温で判断しますが、遊泳が可能な場合は青旗、禁止の場合は赤旗を各小学校プール前に掲揚します
- 詳細 スポーツ振興課 ☎ 2175

募集



臨時職員募集

市立病院では、訪問看護ステーションに勤務する臨時職員を募集します。

- 職種・資格 臨時看護師 看護師の資格(取得見込み含む)を有する方
- 臨時事務員 資格不問
- 採用日 7月1日
- 申込方法 顔写真を貼った市販の履歴書(備考欄に職種を記載)を郵送または持参に、市立病院職員係 ☎ 2131へ

くらし



定例行政相談

行政への苦情や要望などの相談に行政相談委員が対応します。お気軽にご相談ください。

- と き 6月15日(金) 午前10時～正午
- と ころ コープさつばろ砂川店1階
- 相談料 無料
- 詳細・申込 生活交通係 ☎ 2121へ

スズメバチの巣の撤去

スズメバチが巣を作り始める時期になりました。女王蜂は1匹で巣を作り始めますが、巣の作り始めのころはほとんど攻撃性がないため、どんなでもスプレー式殺虫剤で容易に巣を取り除くことができます。市では、一般住宅にできつつありますが、日頃から住宅周りの点検を行いましょ。

- ※ 市で駆除するのが困難な場所や事業所に巣が出来た場合は、駆除業者を紹介いたします
- 詳細 環境衛生係 ☎ 2121

子育て



児童手当の現況届

- 現在児童手当を受給している方は、引き続き手当を受けられる資格があるか確認するために、毎年6月1日現在の状況を記載した現況届を提出していただく必要があります。この届け出がないと6月以降の手当が受けられなくなりま。対象の方には、すでに案内文書を送付していますので、6月29日(金)までに、子育て支援窓口まで忘れずに提出してください。なお、公務員の方は、勤務先で手続きをしてください。
- 詳細 子育て支援係 ☎ 2121

水道

についての
お問い合わせは...

中空知広域水道企業団

フリーアクセス
(通話料金無料)

オイシイミズ

砂川営業所(砂川市役所1階)

080-080-01432

TEL 54-2121

TEL.53-3831 FAX.53-2126

料金の
お支払いには、
便利な口座振替を

まだまだ元気に働きたい!そんな想いをお持ちの方は...



シルバー会員大募集!!

砂川市

シルバー人材センター

☎ 52-4159

西7条北4丁目1-1(総合福祉センター内)

【ホームページ】

http://sunagawasilver.web.fc2.com/

ママさんリフレッシュ セミナー「DIY講座」

子育てをするママさん同士、交流しながら心も体もリフレッシュしましょう。今回は、DIYの基礎と道具の使い方の講座です。少しでもできるテクニクを学んでみませんか。

●とき 7月6日(金) 午前10時～

●ところ 公民館2階 第1

実習室

●講師 三共建具工業(株) 水島聖二氏

●対象 就学前の幼児とその保護者

●定員 10人

●託児 無料(定員15人)

●詳細・申込 7月2日(月)までに、社会教育係☎2121

1または子育て支援センター☎2450へ

6月の子育てひろば

毎月1回、幼児とその保護者を対象に「学び体験教室 子育てひろば」を開催します。

●とき 6月18日(月) 午前10時～11時30分

●ところ 公民館4階 大会

議室

●対象 就学前の幼児とその保護者

●内容 『子育て支援センター「サテライト」公民館』

子育て支援センターで開催している「サテライト事業」の公民館版です。今回はリ

トミックもあります。リズム遊びを楽しみましょう。

●詳細 社会教育係☎2121

教育文化



書道連盟会員展

砂川書道連盟では、公民館グループによる会員の展示会を開催いたします。ご自由に鑑賞できますのでお誘い合わせのうえご来場ください。

●とき 7月3日(火)～7日(土)

午前10時～午後5時

※ 最終日は午後4時まで

●ところ 公民館2階 特別

展示室

●詳細 砂川書道連盟 高村 ☎2116

地域交流センターゆう伝言板

■ゆうサンサン市場

大人気のフリーマーケットを開催します。

◆とき 6月24日(日) 9:30～12:30

◆ところ 交流スペース

6月17日(日)12:00～、18日(月)は休館となります

【お問い合わせ】NPO法人ゆう☎3111

女性同士で語るゆったりミーティング

現在市では、地域資源を活用した「地域ブランドづくり」を進めています。まちづくりへの思いなどを語り合い、女性同士のネットワークを広げませんか。

▷とき 6月27日(水)

【昼の部(午前10時～正午)】

▷ところ 地域交流センターゆう ▷参加料 無料 ※ 子ども連れ可(託児なし)

【夜の部(午後7時～9時)】

▷ところ SuBACo ▷参加料 600円(サンドイッチBOX付)

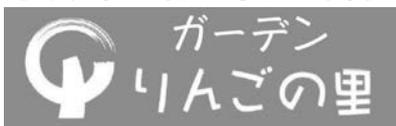
【昼の部・夜の部共通】

▷講師 (株)まちづくり観光デザインセンター 代表取締役社長 かとうけいこ氏

○詳細・申込 6月20日(水)までに、商工観光係☎2121へ

市の人口(5月末現在) 世帯数 8,955世帯(-11) 人口 17,226人(-24) 男 7,995人(-16) 女 9,231人(-8)

快適な居住空間の中、お食事や趣味の時間を楽しくお過ごしいただけます



サービス付き高齢者向け住宅

「安心」に支えられた「自由」な暮らしを りんごの里グループが支えます

【お問い合わせ】

晴見3条北8丁目3番5号

☎ 52-3650

↓1人部屋12帖、2人部屋20帖



↑リビング

市民憲章

第1章

健康なからだど、楽しい家庭をつくる市民になりましょう

第2章

自然を愛し、きまわりを守り、暴力を許さぬ市民になりましょう

第3章

仕事にはげみ、産業を豊かにする市民になりましょう

第4章

知性と若さに満ちた文化を高める市民になりましょう

第5章

たがいに助けあい、未来に夢をもつ市民になりましょう

(昭和45年11月3日 制定)



市の木 ななかまど



市の花 すずらん